

令和3年度地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	大町で体験する健康食育事業
事業主体 (連絡先)	大町市 (民生部市民課中央保健センター：0261-23-4400)
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実
事業タイプ	ソフト
総事業費	602,503円 (うち支援金：451,000円)

事業内容

- 1、バランスアップキャンペーン
 - (1) 健康メニューのスタンプラリー (10~11月)
 - (2) ボディバランス教室 (11~12月)
 - ・健康に配慮したメニューを提供する飲食店の拡大
 - ・栄養と運動を通じた健康づくりの意識啓発
 - ・栄養バランス、野菜量、減塩方法を知る機会の提供
- 2、ライフステージに応じた栄養啓発
 - (1) 保健センター菜園と収穫野菜による食育活動
 - (2) フードモデル、パネル等を活用した展示啓発
(保健センター、市役所、図書館、公民館)



【店舗における啓発】

【目標・ねらい】

- ① 市民の健康意識向上
- ② 健康メニュー提供店舗数増加
- ③ 幼少期からの野菜摂取促進

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 市民の健康意識向上 (アンケート結果より)
 - ・前年度からの継続参加者 38名のうち、3名が減塩意識向上、9名が野菜摂取量増加に至ったと推測された。
 - ・減塩を心がけている人の割合 87.5% (R2：73%)
 - ・事業に関する感想・要望等 50件 (R2：38件)
 - ・ボディバランス教室参加者数 35名 (R2：35名)
- ② 健康メニュー提供店舗数増加
 - ・店舗数 13店舗 (R2：12店舗)
- ③ 幼少期からの野菜摂取促進
 - ・栽培野菜 8種、栽培野菜の事業への活用 計 27回

※自己評価【B】

【理由】

昨年度より健康メニューを提供する店舗が増加。事業についての感想や要望等も多く聞かれ、減塩の意識づけや健康食育への関心が高まっていると考えられる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

スタンプラリーに協力いただいた店舗は市の食育健康応援店として登録。栄養改善学会等が審査する「健康な食事・食環境」認証制度を案内し、継続的に健康メニューが提供できるようすすめる。今後は食環境づくりに関する実行委員会の立ち上げなども検討していく。

野菜栽培、展示啓発は野菜摂取量増加をはじめとする健康づくりにつながる機会となっている。地産地消が推進でき環境面に配慮した取組でもあるため、継続して実施していく。また、食生活上の課題に自ら気づくことができるよう、野菜摂取量が把握できる機会を設けるなど、実生活で活かせるような事業も組み合わせる展開していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和 3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	シェアサイクルによる北アルプス広域観光推進事業		
事業主体 (連絡先)	大町市観光協会 大町市大町 3200 Tel 0261-22-0190		
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大(ア特色ある観光地づくり)		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	1,708,150	円 (うち支援金:	1,197,000 円)

事業内容

- 1 シェアサイクル拠点の確保
湖の観光地として人気の木崎湖にシェアサイクル拠点を整備する。
- 2 シェアサイクルの為にe-バイク購入
拠点到e-バイク、ヘルメット、修理工具を常設し、連携を図りながらレンタルサイクルを推進する。
- 3 e-バイクレンタル・シェアサイクルの告知PR
SNS、広告などでのシェアサイクルの情報発信
拠点施設来店者に対して映像によるサイクルツーリズムの広報
利用促進を図るための企画・実施

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 1 シェアサイクル拠点を木崎湖に8/1~11/31の間開しレンタサイクル事業を進めることができた。
- 2 シェアサイクルの利用増を目的に広報活動を行ったが緊急事態宣言発出もあり、利用目標50台のところ実績4台(協会1台 木崎湖3台)であった。
- 3 レンタサイクル利用増を目的に看板、のぼり旗など整備を行いレンタサイクル拠点として認知度UPに努めた。協会のレンタサイクルはリピートするお客様もあり、1日利用者が67台と前年の25台より大幅に増加した。新拠点については認知度が広がらなかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後、新たに大町温泉郷にも拠点を確保しシェアサイクルとしてより利便性を高める環境を整える。また、乗捨てされたe-バイクを移送時に簡単に車へ積込ができること、移送による傷や故障を与えないなどの搬送方法にも取り組みシェアサイクルを推進していく。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(活動写真)



【木崎湖拠点施

【目標・ねらい】

- ①サイクルツーリズムの推進を軸とした観光宣伝
- ②観光客の利便性の向上
- ③e-バイクによる市内地活性化

※自己評価【 B 】

【理由】緊急事態宣言発出のなかレンタサイクルを進められたこと、シェアサイクルについては目標達成できなかったが、実績ができ次年度に繋げることができた。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	大町市農産物等輸出促進事業
事業主体 (連絡先)	大町市農産物等輸出協議会 0261-22-0420
事業区分	(6)イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	566,956円 (うち支援金: 453,000円)

事業内容

香港において、大町市の米、りんご、トマト、りんごジュース、ジャム等の農産物や加工品などの販売やPR等を行い輸出の販路の確保等に取り組んだ。
また、海外への輸出における理解促進等を図るため、輸出セミナーを開催し、海外の情勢やブランドづくりなどの講演を実施した。

・PRキャンペーン

令和4年1月15日～17日

香港(九龍湾) MUJI Telford Plaza 店

・セミナーの開催

令和3年7月7日

大町市役所西会議室(18名参加)



【PRキャンペーン】

【目標・ねらい】

- ①米の安定的な輸出量の確保
- ②新たな輸出品目の増加
- ③セミナーによる輸出への理解促進

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①本年度においても香港への米の輸出量が確保できた。
- ②PRキャンペーンで販売した加工品2品目について、キャンペーン終了後も現地販売店において継続して販売いただくこととなり、追加発注をいただくなど販売促進につながった。
- ③輸出における海外の情勢やブランドづくりなどについて講演いただくとともに、シンガポールの情勢等も講師から直接伺うことができ理解促進につながった。

※自己評価【B】

【理由】

- ・PRキャンペーンの実施により、目標の1品より多い2商品が継続的に販売いただけることとなった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も輸出における海外の情勢や輸出事業者と連携しながら、米や日本酒、加工品などの輸出や現地でのブランド化、販路の開拓などに取り組みながらノウハウを蓄積するとともに、輸出への理解促進を図っていきたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	コロナに負けない信濃大町 食のおもてなし事業
事業主体 (連絡先)	信濃大町の食 おいしいプロジェクト実行委員会
事業区分	産業振興、雇用拡大に関する事業 ア
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,525,880 円 (うち支援金: 1,877,000 円)

事業内容

北アルプス国際芸術祭を契機に市内飲食店に参加を呼びかけ、信濃大町らしい特色のある弁当の開発を行った。また弁当開発に先立ち、郷土食材を使った弁当向け料理の試作発表会を行い、アンケート結果をもとに弁当のブラッシュアップに努めた。

芸術祭会期に合わせて、開発した弁当を一元的に予約受渡しする仕組みを試行、持続可能な観光地づくりの推進に努めた。具体的には、事前予約とキャッシュレス決済が可能なオンラインショップを開設して予約を取り、駅前インフォメーションセンターで受渡しをした。フードロスを削減し、地元の飲食店に無理をさせないために予約は3日前(後半2日前)までとした。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①飲食店9店の参加により、地元食材を使った22種類の料理が試食発表会に出品され、7種類の弁当を開発することができたが、販売総数は200個程度にとどまった。
- ②北アルプス国際芸術祭の公式サイト内の食のページからオンラインショップに訪れるお客様が圧倒的に多く、滞在中の食の選択肢を広げることができた。
- ③決済サイトを活用して事前予約とキャッシュレス決済が可能なシステムを構築し、複数店舗のお弁当がワンストップで購入でき、受渡せる仕組みを試行した。
- ④予約制にしたことで食品ロスの削減にはつながったが、販売数が伸びなかったためにコストカットまで至らなかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回の試みにより、今後の事業所等へのランチ提供やワーケーション滞在客への食事提供等、新たなビジネスチャンスが開けた。一方で、決済サイトの使いにくさや事前予約の難しさも明らかになり、課題も残った。これが、今後の信濃大町を訪れるリピーター・ファンの増加につながるようまた、地元食材の起用により地域内での経済循環を促すことができるよう、工夫していく必要がある。



【開発された7種の地彩べんとう】

【目標・ねらい】

- ①信濃大町らしい弁当の開発・提供
- ②北アルプス国際芸術祭来訪者の食の満足度向上
- ③一元的に予約受渡しを行う仕組みづくり
- ④飲食店の負担を減らすための予約制の試行

※自己評価【 B 】

【理由】

特製弁当の開発・提供、複数の飲食店の弁当を一元的に予約・受け渡しする仕組みづくりはできたが、販売数が伸び悩み、試行実験としての精度は今一つとなった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北アルプス 夜の景観資源開発プロジェクト
事業主体 (連絡先)	NPO地域づくり工房 (大町市大町 3302 Tel&Fax : 0261-22-7601 E-Mail : npo@omachi.org)
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,182,978 円 (うち支援金 : 1,571,000 円)

事業内容

- ①第4回「長谷川章D-K (デジタル掛け軸) 塾」の開催及び塾生による自主投影
 - ・2021年8月13日(金)～15日(日)の3日間
 - ・会場：ゆ〜ふる木崎湖及び木崎湖畔
 - ・参加者：塾3日間(塾生11名、講師5名)
自主投影1日間(4名)
 - ・内容：高輝度プロジェクターと長谷川氏のデジタルデータの貸与を受けて木崎湖「水と光と灯りの祭り」とのコラボレーションによる湖畔の元旅館街への投影を演習として行いつつ、デジタルアートを活かした地域づくりについて学び、議論した。
- ②塾生による自主投影演習の実施(3ヶ所)
 - ・木崎湖での試写(7/12)、住宅(10/4)、神社(11/20)



【ゆ〜ふる木崎湖外壁への投

【目標・ねらい】

- ①D-K を利用した「夜の景観づくり」の担い手を育てる。
- ②地域社会と連携した事業の継続を模索する。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①地元塾生(6名)が定着し、長谷川氏の信頼も得て(デジタルデータの提供等)、塾生のみにより自主的に企画し、投影するノウハウを蓄積しつつある。
- ②COVID-19で中断していた木崎湖花火大会の再開に寄与し、地域社会との連携により事業継続への道筋をつけることができた。
- ③地元でのイベント企画に関連して、提案を求められるようになるなど、知名度が高まった。
- ④大町を発信地として、来年度より他地域での講座実施を進めていくこととなった。

※自己評価【A】

【理由】

過去2年間の実績により、地域社会との協働関係が構築され、継続させていく展望を開くことができた。また、塾生側に企画・実施するノウハウが蓄積された。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ①木崎湖畔におけるD-Kイベントを、地域社会との連携により継続していく。
- ②COVID-19後を念頭に、地元塾生による自主企画を北アルプス山麓の観光拠点の関係者に働きかけ、実績を蓄積していく。
- ③同様に、各地の塾生と連携して、同時開催などの企画を進めていく。
- ④上記②と③を通じて、「夜の景観づくり」を推進するコミュニティ・ビジネスを立ち上げて、持続的な運営を図る。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ものづくり人材育成地域連携推進事業
事業主体 (連絡先)	池田町 (電話: 0261-62-3127)
事業区分	(6) オ・その他地域の特色及び個性を活かした産業振興並びに雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	906,400円 (うち支援金: 675,000円)

事業内容

- ・若者の地元就職や、就職におけるミスマッチングを減らすため、地元学校側と協力企業の繋がりを強化する専門家をコーディネーターとして配置し、学校・生徒・企業間の調整及び地域住民との連携業務を進めた。
- ・コーディネーターは池田工業高校に配置する。
- ・企業が求める人材を育成するため、IT教育専門学校と連携し、専門知識アップの研修を実施して、生徒達の専門性を高めた。
- ・外部講師を招いての講習会は、新型コロナウイルス感染の影響を考慮して中止した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・コーディネーターが池田・松川・大町地区及び安曇野市の企業を訪問し、研修の実施及び就職受入について交渉を行った。
- ・企業等訪問、通算69件、協力企業の増加、3件
- ・町内高等教育専門学校を会場としたIT講習を実施。
- ・教育専門学校講師による、IT分野の社会情勢や、パソコンによるプレゼンテーション用ソフトの使い方の実習を受けた。(6日間開催、参加者141名)

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・コーディネーターによる企業、学校訪問を重点的に推進し、協力先企業を増やすとともに、大北・安曇野地域から松本地域まで訪問先を拡大していきたい。
- ・IT講習について、新型コロナウイルス対策に配慮しながら、参加人数を増やすなどして引き続き実施したい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【企業訪問中の様子】

【目標・ねらい】

- ①町内企業及び学校の訪問による研修・就職受け入れ協力依頼
- ②生徒のスキルアップを目的としたIT研修の実施

※自己評価【 B 】

【理由】

大北地域の企業に対する訪問回数を大幅に増やすことが出来たが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、安曇野市等、地域外の企業との連携が予定より進まなかった。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	桑のふるさと再生プロジェクト
事業主体 (連絡先)	桑ひろつ (事務局:池田町役場産業振興課内 TEL0261-62-3127)
事業区分	(5) 環境保全、景観形成
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,290,798 円 (うち支援金 : 1,008,000 円)

事業内容

・桑畑再生

桑葉の収量を増やす取り組みとして、令和元年度に開墾した広津地区実業のモデル桑畑の隣に新たな圃場を開墾し、電気柵 150m の設置と桑苗 900 本を植栽し圃場エリアを拡大しました。

・エルダー圃場の緑肥および苗植栽

桑の実と相性のよいエルダーベリーの「ベリーエリア」を本年度モデル園として整備をしました。鳥獣被害の多い山間地ではなく町のハーブ農園の一区画をモデル地区に選定し、エルダー苗 98 本の植栽を行いました。



【ボランティアの大学生と共に】

【目標・ねらい】

- ①桑生産者の担い手不足
- ②桑葉の生産量の不足
- ③鳥獣被害対策
- ④桑の実の新たな利用法の模索

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①植栽時に、令和元年度に実施したクラフト教室の参加者の大学生 5 名の協力が得られ、今後も継続して作業に参加してもらえる解約が取れた。
- ②担い手を確保したことにより、荒廃桑地を再整備し生産量の増加に一定の目途がついた。
- ③再整備した圃場を囲むように、電気柵を設置したことで、シカによる食害を防ぐことが出来た。
- ④池田町、PolarisAct の協力により、エルダーベリーを定植することが出来た。

※自己評価【B】

【理由】

担い手の確保や栽培面積の増加には繋がったが、コロナの影響で思うような営業が出来ず、取引先の増加にはならなかったため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

植栽したばかりの桑やエルダーベリー試験圃場について調査研究を重ねながら、ボランティアとともに維持管理を図り、基盤整備した圃場に更なる桑の植栽を行って栽培面積の拡大を図りたい。

エルダーベリーが収穫された際は、新たな商品開発を研究していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	池田町由来の酒類とコース料理を愉しむイベント
事業主体 (連絡先)	池田町観光推進本部 (北安曇郡池田町池田 4169-3)
事業区分	⑥ 産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,335,295円 (うち支援金: 1,440,000円)

事業内容

高品質の清酒やワインが生産される当町のブランド力向上及び醸造酒愛好家の増加・酒類の販路拡大を目的にコース料理と共に酒類を楽しむイベントを開催。

コロナ禍の影響を抑止するため、これまで単日千人を動員する規模の開催を改め、ウイルス感染対策を適正に施し、少人数制の長期間開催にて行いました。

新型コロナウイルス感染防止対策には万全を期しましたが、緊急事態宣言の発出などイベント開催自体が肯定されづらい環境であったことから開催期間を大きく短縮せざるを得なかったことが残念でした。



【ワインぶどう園での開催風景】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

本イベント開催にて感染事例は皆無でありました。

これは、開催方法によるものと参加者が全員県内在住者であったことによるもので、提供する酒類がほぼ県内流通の製品であったので、酒造メーカーや製品への認知度の向上につながり、来店する機会のなかった飲食店の魅力を知る機会となりリピーターの獲得にも繋がった。

10月の週末、7回の開催で平均13名(平均定員数15名)の動員となりました。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

少人数制でのイベント開催は、参加者のステイタスを感じさせ、参加者一人一人のニーズに伴った酒類のセールスができることを認識できました。

次年度も事前予約少人数制での開催を計画しますが、コロナ禍の影響による開催期日の変更等に伴うきめ細やかな対応方法を検討し、計画開催日数の実施による動員数の確保、加盟飲食店への利益誘導を向上させていきます。

【目標・ねらい】

- ① 地場産酒類の魅力啓発
- ② 地域内飲食店への誘客
- ③ 池田町のブランド力の向上
- ④ コロナ禍での安全安心な開催

※自己評価【C】

【理由】

コロナ禍の影響によるものではありませんが、実績として計画目標であった約50回の開催で延べ1,000名動員には及ばなかった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和 3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「Alps Sake&Herb Plus+」日本酒&ハーブカクテル推進ブランディング事業		
事業主体 (連絡先)	「Alps Plus+」ブランディング事務局 池田町池田 2607-1		
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業		
事業タイプ	ソフト		
総事業費	1,358,000	円 (うち支援金 :	1,062,000 円)

事業内容

- (1) 日本酒ハーブカクテルの商品製作
- (2) 日本酒ハーブカクテルの動画制作

日本酒ハーブカクテルを北アルプスの夏の時期の飲み物として特産品になるよう振興することを目的とし、昨年度の試作品を試された20名からのアンケートをもとにブラッシュアップしました。ホームページに掲載して、今後はふるさと納税返礼品の登録を予定しています。



【商品パッケージ内のカクテルチラシ】

事業効果

今回が最終年度となる元気づくり支援金事業であり、商品化に至る経緯については、平成30年に「Sake & Herb Cocktail Competition」から、北アルプスに來たら「これ！」を作ろうとブランディングを企画したことがきっかけに、地域の生産組合、酒造、市町村、商工会、観光協会などが各年度ごとに協力してくださいました。コロナ禍においては、オンラインイベントを開催して、国外や首都圏からの参加者もあり、池田町の魅力発信できる新たな方法を見いだすことに繋がりました。

今年度においては、来ることができなくても、地域の魅力を知ってほしいと、「Sake & Herb Cocktail」を商品化しました。カクテルの作り方動画を制作し、チラシを簡素化してイノベーションを図りました。

【目標・ねらい】

今までにない斬新で、そして今ある特産品や産業とのコラボレーションをブランディングした、日本酒ハーブカクテルの商品化

※自己評価【 B 】

【理由】

これまでの事業をもとにブラッシュアップし、ストーリーのある商品が完成しました。しかしながら、ふるさと納税返礼品の登録については、酒税法の問題もあり、税務署等と相談しながらの販売となります。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後は、北アルプスの新しい企画ブランド商品として、ふるさと納税返礼品の登録して、地域に貢献できるよう取り組みます。また海外輸出を踏まえた、英語の動画を制作して、北アルプスを動画で楽しみながら、飲んでいただけるような取り組みや、コロナ禍が収束したら、現地で飲んでもらえるよう振興してまいります。また北アルプス内でのハーブ栽培の取り組みを安定させるために、ハーブを使用した6次産業化開発にも取り組みます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和 3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「北アルプス安曇野ワインバレー」ブランド化推進 ～SNSを活用した情報発信と試飲会 in 銀座 NAGANO～
事業主体 (連絡先)	北アルプスワインぶどう研究会 北安曇郡池田町大字会染5543
事業区分	(6) イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	460000 円 (うち支援金: 368000 円)

事業内容

- ・「北アルプス安曇野ワインバレー」の魅力発信のために動画を制作
5月～11月、北アルプスとぶどう畑の光景、生産者へのインタビューを交えた動画を撮影
- ・出来上がった動画を SNS で発信
- ・動画を活用して、オンラインワインイベントを開催
(銀座 AGANO 試飲会の代わりに実施)
1月22日 ワインショップ fun との共同開催
- ・北アルプスワインぶどう研究会会員ワイン販売
(銀座 NAGANO 試飲会の代わりに実施)
1月26日～1月30日 東御ワインチャペルに販売委託



【動画の一場面】

【目標・ねらい】

事業効果

- ・動画を見て「北アルプス安曇野ワインバレー」を知ってもらえた。
動画再生回数 9806 回
- ・オンラインワインイベント開催 17名参加
- ・東御ワインチャペルにおいて、北アルプスワインぶどう研究会会員ワイン(48本)販売会を開催することができた。
- ・コロナウイルスの急激な増加で試飲会を開催することはできなかったが、試飲会の問合せが多く手ごたえを感じた。

- ① 「北アルプス安曇野ワインバレー」を多くの人に知ってもらおう。
- ② 動画を見てイベントに参加してもらい、この地区のワインの良さを知ってもらおう。

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・多くの人が動画を再生してくれた。
- ・動画を見た人がオンラインイベントに参加してくれた。
- ・東御ワインチャペルでの試飲会予約が好調であった(試飲会はコロナウイルス蔓延のため中止)

今後の取り組み

- ・動画を通して「北アルプス安曇野ワインバレー」を多くの人に知ってもらえたので、今後は消費者に「北アルプス安曇野ワインバレー」に足を運んでもらい、この地域のワインの美味しさ、北アルプスの美しさを体験してもらいたい。
- ・令和4年は消費者と生産者が直接交流する「北アルプス山麓ワインツアー」を実施し、この地域のワインファンを増やし「北アルプス安曇野ワインバレー」のブランド化を推進したい。
- ・「北アルプス山麓ワインツアー」では、当研究会のワインを宿泊施設で提供し、観光面で北アルプス地域の魅力アップに貢献したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	教育、文化の振興事業
事業主体 (連絡先)	池田町商工会 (TEL 0261-62-5085)
事業区分	外国籍市民との交流事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,522,000円 (うち支援金: 2,817,000円)

事業内容

長野県が進める多文化共生推進委員会経験者で日本アルプス国際学院での教務実績を持つ教員を中心に地域で暮らす外国人に対し日本語講座を開催し、日本語国家資格N2、N3、N4の取得を目指した。日本文化の伝承教育については池田町日本語教室が担当し、事業運営を行った。

7月試験の合格者に対し、表彰式を実施し記念品を贈呈した。12月試験の合格者に対しては新型コロナウイルス感染症の影響により、表彰式は行わず記念品贈呈のみとした。

事業効果

- 外国人が日本語や日本文化を理解することにより地域へのスムーズな定着、外国人と日本人相互の連携、地域を担う外国人の養成の取り組みができた。
- ものづくり産業から実習生が参加し、日本語レベルの向上ができた。
- 地域で暮らす外国人の情報の共有場所として設定できた。
- 外国人が気軽に集まれる場所の設定ができた。
- 日本語検定合格者前期試験10名、後期試験5名を輩出することができた。

今後の取り組み

今後は大北地域の外国人労働者や研修生を中心に、池田町だけでなく他地域の商工会や商工会議所と連携を取りながら、日本語検定資格取得を支援していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【日本語教室 受講風景、表彰式】

【目標・ねらい】

外国人が日本文化を学び、日本語能力をアップするための学習の機会を提供する。

※自己評価 【 C 】

【理由】

新型コロナウイルス感染症の影響により、講座開催回数や受講者が少なくなってしまったため。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	花とハーブの里のにんにく加工品開発プロジェクト事業
事業主体 (連絡先)	花とハーブの里のにんにく生産組合 090-8326-4375
事業区分	(6)イ農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,032,896 円 (うち支援金: 826,000 円)

事業内容

1. テスト販売及び販売促進に向けた取組み

製品をテスト的に販売するとともに、販売促進を行う。

- (1) 製品開発のお披露目会の開催
- (2) 池田町ふるさと返礼品での取扱い
- (3) 池田町道の駅、ネット通販でのテスト販売
- (4) 販売促進に向けたPR資材の制作

2. 2次加工品の商品化への取組み

製品にならなかった黒にんにく(2級品)を加工し、新たな製品を開発する。

- (1) 2級品を活用した試作品の開発検討
- (2) 試作品の開発は他の産地と連携する

3. ネット通販への対応

コロナ禍に対応するためネット通販に向けたHPの構築

- (1) 商品をネット上で購入できるHPの制作
- (2) FacebookやTwitterとリンクしたバナーの制作

事業効果

・ネット販売へ向けての準備

ネット販売へ向けて、ホームページの作成及び公開、Facebookの開設、Twitterの開設を行った。

・販売促進物の作成

チラシの類の作成。2つ折りチラシ、A6商品説明書、A4チラシ、販促袋の購入、シールの増印刷

・2次加工品の商品化への取組み

地元の伝承野菜である「紫にんにく」の黒にんにくの2次加工の開発を、北アルプス地域振興局、県工業総合支援センター食品技術部門、黒にんにく加工業者(株)シュウワ等と行い、長野県の農産物である、蕎麦やきのこや黒豆と混合し、製丸し食べやすい形状の試作品が完成した。

今後の取り組み

1. 元気づくり支援金、最終年度である令和3年度は、黒にんにくのテスト販売、ふるさと納税の返礼品や道の駅での販売が、にんにくの乾燥段階での腐敗で行う事ができなかったため、4年度は取り組んでいく。
2. 本年度行った黒にんにくの二次加工品を販売できるように、加工業者(株)シュウワと、県工業総合支援センター等の指導をもらいながら商品の完成度を煮詰める取り組みをする。
3. 黒にんにくの完成品のネット販売を開始する。



【加工品開発の様子】

黒にんにく2次加工品開発

【目標・ねらい】

- ①本場の生産地である青森県の気候に似ている安曇野・大北地域で、農家の所得向上の為、新たな特産品として、にんにく加工品の商品開発販売に取り組む。特に消費期限が長く栄養成分の高い黒にんにくに力を入れている。

※自己評価【 C 】

【理由】

令和3年6月収穫のにんにくが乾燥中に腐敗し始め、止める事ができず、黒にんにく加工ができなかった。その為テスト販売などの事業ができなかった。2次加工品の開発については県の食品担当部署や関連企業と連携し、商品化への試作品の開発を進め、長野県らしい製品ができた認識している。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書・

事業名	白馬村宿泊産業イノベーション研修実践事業
事業主体 (連絡先)	白馬村・(観光課) (0261-85-0722)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	4,477,000円 (うち支援金: 3,340,000円)

事業内容

○イノベーション実践研修で取り組むこと・学ぶこと

- (1) 宿泊業経営と観光地経営の基本 (継続)
- (2) 外部環境の変化、最新の観光動向、時代に即した宿泊施設のソフト・ハード面のイノベーションのあり方 (継続)
- (3) 地域全体で取り組んだ方が良いと思われる宿泊付帯サービス、業務効率化策、Webを活用した効果的な販売方法等の検討
- (4) 宿泊産業活性化に向けた企画の立案と具現化に向けた検討と実践



【グループワーク】

【目標・ねらい】

- ① 宿泊施設の戦略的な活性化の実現
- ② 個々の宿泊施設の経営力・質の向上
- ③ 村内連携による滞在の魅力を高める
- ④ 宿泊施設同士の繋がりの強化、ビジョンの共有による産業活性化の機運を高める

※自己評価【 B 】

【理由】

・1年目の事業実績を踏まえ、参加者同士の横連携と課題の共有が図れ、産業活性化に向けた機運の醸成につながられました。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・滞在魅力の向上に向けて、個々の宿泊施設の経営力や質の向上を磨き上げることへの意識の醸成が図れています。
- ・地域の課題を踏まえて、自らが取り組んでいくこと、地域を巻き込んでいくことの課題を整理して、課題解決のための提案をまとめました。
- ・研修を通じて、施設及び地域の活性化に向けた取り組みを実現させることの機運が高まり、参加者のモチベーションアップにつながっています。
- ・行政としては、意欲ある宿泊施設と接点を持つことで観光地経営の着実な遂行と支援策の制度設計に効果を見だせています。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・受講者施設においては受講後3年を目途に、施設環境の課題とされた項目のイノベーションの実践に着手する見込みです。また、そのイノベーションの実践を地域の宿泊業へ波及させることで、産業の生産性向上と地域の滞在環境の魅力向上につなげたいと考えます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

- 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
- 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	白馬五竜を美しく彩る「白馬五竜ボタニカルプロジェクト」
事業主体 (連絡先)	白馬五竜観光協会 0261-75-3700
事業区分	⑤環境保全 景観形成に関する事業 ①地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	908,380 円 (うち支援金 : 726,000 円)

事業内容

フラワーロード

昨年の植栽に引き続き村道 1115 線に白馬五竜スキー場エスカル
プラザからいいもりゲレンデ間 1200m にアジサイを植栽した。
植栽に関しては、専門家にアジサイの基本知識、植え方、管理方
法の講習を受けてから実施した。



【アジサイ植栽】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎
に記載すること。

植栽参加者 58 名

アジサイ 700 本の植栽。

協会員が自ら植えたことにより、宿泊客にも散歩コースとして紹
介が出来き、沿線の草刈等もして、より景観が良くなった。

この植栽を実施する事により、いいもりゲレンデもグリーン期の
営業を行なうようになった。貸自転車やサイクルツアーを組んで、
植栽区間をコースに組み込んだ。

また、植栽の日に合わせて古着のリサイクルを実施した。

参加者に SDGs を知ってもらう機会となった。

【目標・ねらい】

- ① 地域の景観形成
- ② 花をテーマとした地域の魅力作り
- ③ グリーン期の新たなイベントによる
誘客促進

※自己評価【 B 】

【理由】

多くの参加者で作業も早く終わることが出来た。また、植栽箇所を通るイベン
ト等も作り白馬村内を徒歩、自転車で観
光して CO2 を排出しない環境づくりに
寄与出来た。しかし協会員外の参加者が
少なく課題となった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

昨年、今年と植栽を行い、村道 1115 線がアジサイロードとなりつつある。最後の植栽として次
年度白馬 47 まで実施すれば、約 5k のアジサイロードとなる。植栽区間は、自転車のイベント
や、住民の散策コースとして利用されており、自動車以外の移動として、観光客も参加できる
ノルデックウオークやサイクリングツアーを企画していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	白馬創業者支援事業
事業主体 (連絡先)	白馬創業塾サポート協議会 0261-72-5101
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	554,000円 (うち支援金: 443,000円)

事業内容

①創業者情報冊子の作成

創業者 11 名を掲載した情報冊子を 1000 冊作成。
電子パンフレットを白馬創業塾サポート協議会 HP の掲載。

②情報冊子の配布

銀座 NAGANO、長野県名古屋情報センター、県内関係団体、創業塾受講生、創業相談者に対し情報冊子を配布した。



【冊子写真】

【目標・ねらい】

- ①創業者支援
- ②創業予定者支援
- ③定住移住の促進
- ④

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①創業塾受講者へ情報冊子を配布したことにより創業意欲を高めることが出来た。特に今年度は女性の創業相談も多かったが、情報冊子の記載事業者も女性が多く女性起業家の方の参考になったと考える。

②定住移住を念頭に置いた広報を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で積極的な広報を行うことはできなかった。県外は銀座NAGANOと長野県名古屋情報センターに郵送を行ったのみとなった。

※自己評価【C】

【理由】

掲載希望者が思うように集まらなかった。コロナの影響下で期待通りの県外 PR ができなかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

新型コロナウイルスの影響を見ながら、来期の白馬創業塾と併せて県外にPRを行う。特にアフターコロナに地方移住が盛んになる可能性もあるため、多くの方に白馬村を選択肢に入れてもらえるようPRを行う計画。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	パラスポーツ体験学習会の実施
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 白馬スポーツ・自然振興協会 白馬村神城 22200-31 (090-9870-8049)
事業区分	教育・文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,477,000円 (うち支援金: 1,036,000円)

事業内容

- ① 競技用車椅子を使用し、障がい者、健常者が同じ条件(車椅子に乗って)色々なスポーツを共に楽しむ。
- ② 競技は、屋外、屋内両方に亘り、屋外では主にソフトボール、テニス、フラッグフットボールを行い、屋内では健常者には車いす体験をしてもらい、障がい者と共にバスケットボール、ハンドボール、タッチフットボール、ポッチャ等をゲーム形式にて体験学習する。
- ③ 教える側が付け焼き刃の知識では、表面をなでる程度で終わってしまうため、専門知識を有し、経験も踏んだパラスポーツを教えられる専門家に指導を仰ぐ。
- ④ 特に学生達にパラスポーツを教えられるスキル、知識を習得して貰い、一過性で終わらないための指導者づくりも同時に行う。
- ⑤ 車椅子を実際に操ることにより、障がい者の立場に立っての理解が進む、相互理解の一助になる。故に特に今後教育現場にてのイベント実施を見据え、開催場所を学校、参加者を教育担当者とすることを強く訴えて行く。



【パラスポーツ体験学習会】

【目標・ねらい】

- ① 健常者と障がい者の相互理解
- ② 車いすスポーツへの理解と啓蒙
- ③ 受け入れ施設の理解と啓蒙
- ④ 多様性の理解と共生社会の実現

事業効果

- ① 車いすスポーツの種類、面白さが一般的に認識される。
- ② 健常者、特に教育現場に於けるイベント開催に、子供達の車いすに対する理解が深まり、障がい者に対する思いやりが生まれる。
- ③ 施設(グラウンド、体育館、宿泊、飲食)が障がい者(車いす)に対する認識が新たになり、特に莫大な費用をかけなければ受け入れられないとの認識が改められる。
 - ① 施設の有効活用が図られ、人的交流が深まり、新たな産業振興が期待できる。
 - ② イベントは健常者、障がい者の「心のバリアフリー」を推進する事に繋がり、障がい理由とする差別の解消を推進し、あらゆる人達が障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格を尊重し合いながら共生する社会の実現に資すると考えられる。多様性を尊重する共生社会の実現に繋がる。

※自己評価【B】

【理由】

新型コロナウイルス感染防止の観点より、当初計画した回数のイベント開催ができなかった。
緊急事態宣言、まん延防止等重点措置発令の狭間を縫って2回の開催にこぎつけることが出来た

今後の取り組み

先の東京パラリンピック開催により、障がい者スポーツへの理解と共感はより深まった。とはいえ、車いす利用者が気軽にスポーツを楽しむ環境にはまだ多くのハードルが存在する。白馬圏内には800余りの宿泊施設があるものの、歴史的経緯よりその利用は未だに「ウインタースポーツ」に特化しており、グリーンシーズンの誘客に課題が残っている。当協会では長野県の推進する「ユニバーサルツーリズム」をテーマに「グリーンシーズンに如何にお客様を呼び込むか」を中心課題として活動している。今回の活動テーマ「パラスポーツ」もその一環であり、白馬圏全体が車いす利用者に優しい、訪れやすいリゾートにしたいと願っている。コロナ禍で観光産業が意気消沈している中で、「パラスポーツのメッカ白馬」を復活の柱としたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	八方地区花の道事業
事業主体 (連絡先)	白馬村八方区 北安曇郡白馬村大字北城 5732 - 2
事業区分	5 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	7,223,623 円 (うち支援金 : 5,000,000 円)

事業内容

区として各組の代表と相談をするなかで地域にとっても重要なインバウンド集客のために何が出来るか検討を実施し花を使った夏場の街並みを綺麗にしていく活動と老朽化が目立つ街路灯の新設、古い看板の撤去事業を実施。

1. 八方区各組の役員、未来委員会メンバーでの検討会の実施。
2. フラワーバスケット、ベンチの制作・設置
3. 看板撤去
4. 街路灯の設置
5. 中央街街路整備



【花・ベンチ・街路灯の様子】

【目標・ねらい】

- ① 古い案内看板の撤去
- ② 花を飾り街並みを綺麗にする活動への地域住民の参加
- ③ 老朽化した街路灯の整備

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1. 花を飾り古い看板を撤去することで街並みを美しくし地域住民のおもてなしに対する意識付けを行い来訪者の満足度向上が図られた。
2. 街路灯を整備し、古い案内看板を撤去することで街並みを綺麗に整備した。

※自己評価 【 B 】

【理由】

- ・古い看板の撤去により街並みがきれいになった。
- ・地域の女性クラブを中心に花事業への参加者が10%増加
- ・街路灯に設置により夜間の観光客の往来が増加

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

1. 毎年区役員、女性クラブによるフラワーバスケットの設置
2. 花を生かしたイベントの開催 (コロナの回復状況による)
3. ゲレンデへの誘導目的としての街路灯追加設置 (区の事業費確保)

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	新型コロナウイルス影響下における地域経済の支援事業
事業主体 (連絡先)	白馬商工会 0261-72-5101
事業区分	⑥産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,391,310 円 (うち支援金 : 1,072,000 円)

事業内容

- ①アフターコロナにおける観光産業の在り方、観光立村白馬村の在り方検討会の開催
全5回の検討会を実施。専門家や研究機関を交えての勉強会を2回実施。白馬村と商工会の行政懇談会にも参加し意見交換を実施。
- ②提言書の作成と配布
コロナの影響を踏まえ、提言書を作成したところ当初予定の11月の配布に間に合わなかった。行政への提言を12月に終了させ、提言書を作成配布いたため、2月上旬の配布となった。



【検討会写真】

【目標・ねらい】

- ①地域産業の維持
- ②事業継続に向けた情報提供

事業効果

- ※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。
- ①提言書に関しては、配布した直後であるため効果が図りにくいが、補助金の活用等事業継続に向けた情報提供を通じて地域産業の維持に貢献できた。
 - ②検討会を開催したことにより、多くの事業者から意見収取をすることが出来、今後の経営に関して必要としていることや外部環境の変化に関してどのように取り組むべきかを意見交換でき、事業者へフィードバックできた。事業継続に役立つ良い結果になったと考えている。

※自己評価【C】

【理由】
新型コロナウイルスの変化が激しく、検討のスパンが間に合わない。提言する内容も多岐にわたり、広く浅くの提言になってしまった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。
新型コロナウイルス影響を見ながら検討会議を必要であれば継続する予定。しかしながら、検討する内容が非常に難しいため、今後の実施に関しては、もう一度見直し、どのように実施するかを考えたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	“音楽の風を白馬に” ロビーコンサート推進事業
事業主体 (連絡先)	Hakuba Music Support Association 長野県北安曇郡白馬村北城 2869-1
事業区分	(1) ③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,265,982 円 (うち支援金 : 868,000 円)

事業内容

6月～令和4年2月にかけて新型コロナ感染防止対策に万全を期し、和田野の森教会、白馬東急ホテル、ウイング21ホールを中心に“音風（おとかぜ）コンサート”と銘々して計10回実施。白馬ケーブルTVと連携して演奏会を収録、TV放映（白馬村2,000世帯）、(一社)長野芸術文化振興協会Webサイト、SNSにて配信。演奏者は、白馬及び近隣市村在住のプロ演奏家で構成。また、地域住民と国内外演奏者との連携や協働をテーマに、世界的なストラディヴァリウス・ヴァイオリン奏者中澤きみ子氏、イタリアのイ・ムジチ合奏団でコンサートマスターであったヴァイオリニスト、フェデリコ・アグスティーニ氏、ピアニスト碓井俊樹氏、同、花房晴美氏など一流の演奏家を招聘した。今日ヴァーチャルな映像が主体の演奏会が催されているが、私たちは白馬の自然や地域の風情などを“音楽の風に乗せ”地域の人達や来村されるお客様に上質な音楽を伝えていきたいと願う事業を実施している。



【音風コンサートの演奏風景】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

和田野の森教会、白馬東急ホテル、白馬ケーブルTV放映を通じ、クラシック音楽を身近で体感できるコンサートが実施でき村民が良質な音楽に触れ、親しめる機会を創出した。

- ① 『NAGANO国際音楽祭 in 白馬』の入り込み数250人（新型コロナウィルス感染防止対策上50%に入場制限）
- ② 収録コンサート計10回、ウイング21ホール2回延200人、白馬東急ホテル2回延120人、和田野の森教会5回110人（状況に応じ無観客TV撮影や三密を避けた参加人数10～30人規模演奏会）
- ③ 白馬ケーブルTV放映：視聴契約所帯2000所帯、月に5回程度繰り返し再放送。
- ④ 長野芸術文化振興協会Webサイトに掲載→ミニコンサート

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

白馬村、白馬村観光局、JR 東日本白馬駅、JR 東日本長野支社、(一社)長野芸術文化振興協会（代表：中澤宗幸氏）、東京藝術大学長 澤和樹氏など関係者との連携協働を持続発展させ、クラシック音楽の魅力を広域に伝える活動を展開する。

『NAGANO 国際音楽祭』（音楽監督：澤和樹 東京藝術大学長）が実施するプロを目指す若手弦楽演奏家を育成するプロジェクトに協働参加し若手演奏家の育成や地域交流をさらに推進する。

自立発展のため国内外の著名な演奏者との制作ネットワークを構築し、収益性のある演奏会の開催や地域交流を深め、事業に賛同してくださる地域の企業や個人などからのサポートを得られるよう創意工夫をしていく所存である。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

【目標・ねらい】

- ①良質な音楽への身近なふれあい。
- ②子供達の情操教育と音楽芸術に対する資質の向上。
- ③若手演奏家の発見や育成。
- ④村内外の人的交流の増加（誘客などを含む）。

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・新型コロナ禍感染対策を踏まえ良質な演奏会を開催。TV放映やサイト等で配信し村民に親しめる機会を創出。
- ・白馬および近隣市村の優秀な若手演奏家や世界的な演奏家との協働を達成。より創造的な制作ネットワーク構築に向けた取り組みがスタートできた。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	新型コロナ感染症受診支援搬送サービス事業
事業主体 (連絡先)	白馬・小谷新型コロナ受診支援対策協議会 (事務局 白馬村観光局 0261-72-7100)
事業区分	(4)安全・安心な地域づくり、(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,984,880 円 (うち支援金: 4,787,000 円)

事業内容

令和2年度に続き、新型コロナ感染症の疑いがあり指定病院での受診を進められた方で自身での移動手段を持たない観光客の受診支援のための搬送サービスを提供する。作成した感染疑い者による感染拡大防止と運転手の安全確保のためのガイドブックを遵守して運行する。宿泊事業者を含む観光事業者への周知は、わかりやすい案内資料を作成してメールなどで繁忙期前など数回送り、周知徹底を図る。

運行業務は、(有)白馬交通に委託し、感染防護対策を講じた専用車両(ハイエースコムーター)にて、白馬村・小谷村内の宿泊施設等における感染疑い者等を医療機関へ搬送する。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

昨年に続き、地域が抱える課題を直接的に解決する事業となり、観光事業者や利用者双方が安心できる観光地に寄与できた。

実際の運行は8件だったが、作成したガイドブックにより感染リスクはほぼない状況での運行ができた。

長野県にまん延防止等重点措置が発出されていた冬期間においても学習旅行が催行されるなど、学校や旅行会社からの信頼感を得ている。

一方で、計画していた住民への拡大は、村健康福祉課の多忙(ワクチン接種等)により実現できなかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

新型コロナウイルス感染症が収束しない現状では、まだ必要なサービスであるため、4月以降も継続する。

各事業者へ継続的に周知して有事の際にスムーズな運行を心がけるとともに、経費を抑えた運行体制を模索する。

また、令和3年度に実施できなかった移動手段を持たない村民にも利用範囲を拡大するなどして、今以上に地域抱える課題を解決していきたい。



【感染対策を施した車両】

【目標・ねらい】

- ①交通手段を持たない観光客向けの病院への搬送体制構築
- ②安全・安心な観光地づくり

※自己評価【 B 】

【理由】

長野県にまん延防止等重点措置が発出されている期間であっても学習旅行が催行されたり、旅行会社や学校からの信頼感を得ている。一方、計画していた住民への拡大ができなかった。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	子供たちが安心して走れる MTB トレイル整備事業
事業主体 (連絡先)	八方尾根観光協会 (0261-72-4399)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり) (8)その他地域の元気を生み出す地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,712,837 円 (うち支援金 : 2,139,000 円)

事業内容

【八方尾根里山地区 MTB トレイル造成活動】

・エバーグリーンアウトドアセンター専門スタッフ指導のもと、八方尾根スキー場下部の咲花から細野諏訪神社までのトレイルを整備した。

・コース上に Map 入りの案内看板と誘導看板を設置した。

・プロモーションムービーを作成し、公開した。



【トレイル造成作業】



【重機による作業】



【看板付け作業】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1. 「子供世代を中心とした地域の MTB 人口の増加」
新型コロナウイルスの影響が長引き、完成が遅れたのに加え、降雪が例年より早かったため、実際に利用できた時間が短く、今年の段階では大きな効果は見られていないが、実際に走った方からのコースの評判は非常に良い。特に重点的に開拓・整備した神社の中央部に出る最後のパートは急なアスファルト道を避けられる上に、森林の中のアドベンチャー要素もあり、御神木前に出られることから文化的教育価値に繋げることも出来るため、大変評価が高い。

2. 「八方尾根エリアのグリーンシーズン滞在型観光客入り込み数の増加」

【目標・ねらい】

- ① 子供世代を中心とした地域の MTB 人口の増加
- ② 八方地区のグリーンシーズン滞在型観光客入り込み数の増加
- ③ 白馬村の移住者数の増加

※自己評価 【 B 】

上記同様に今年の段階での効果は測定できないが、八方尾根の SNS 上で 12000 人以上にリーチしており、今期春以降の効果が見込まれる。

【理由】
コロナ禍におけるイレギュラーが多い中で計画した事業を概ね実施出来たため。

3. 「白馬村の移住者数の増加」

当事業との因果関係はまだないと思われるが、コロナ禍で自然の多い白馬村への移住者が増えていることが不動産事業者から報告されているため、生活圏内のアウトドアコンテンツが増えることで、更にそれが増進されることが期待される。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・現在ある動画をより SNS 等を通じて更に広く周知し、利用者を増やす。
- ・八方尾根観光協会の会員を中心に POP 形式の地図を配布し、宿泊のお客様への利用案内を促進する。
- ・レンタル自転車ショップと連携し、モデルコースとしてお客さまに紹介し、利用促進する。
- ・アウトドア会社の MTB ツアーにコースを組み込んで、参加者に利用してもらう。
- ・コースをさらに拡張し、より魅力的なエリアとし、滞在型観光客の取り込みに資する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	白馬ラン&サイクルスタンプラリー
事業主体 (連絡先)	白馬ラン&サイクルスタンプラリー実行委員会 北安曇郡白馬村神城 22346-18
事業区分	【6】 産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	【6】 ア 特色ある観光地作り
総事業費	1,271,801 円 (うち支援金 : 1,012,000 円)

事業内容

コロナ禍において大きく落ち込んだ観光客数を3密を避けながら観光が基幹産業の白馬村に取り戻す仕掛けが急務であることから、「いつでも、だれでも、どこからでも」をコンセプトにランニングとサイクリングで白馬村全域に設置した24のチェックポイントを巡るデジタルスタンプラリーを開催。

- ・ルートとなる白馬村公式サイクリングルート「白馬小径」の清掃と整備(4月~5月)
- ・ホームページの作成と公開(7月)
- ・ルート上の草刈りとQRコードの看板設置(7月)
- ・スタンプラリー開催(8月1日~10月24日)
- ・ルートの保守点検(開催期間中)
- ・看板の撤収とルートの点検(10月)

事業効果

- ・多くのイベントが中止になる中でトラブル無く観光客と地域住民の方にご参会いただきました。
- ・コロナ禍において3密を回避しつつ白馬村全体を無料で楽しんでもいただけるイベントを開催できた。
- ・既存のサイクリング道である「白馬小径」を活用することで観光資源を有効に活用できた。
- ・期間中に毎週巡回作業を行う事で地域のトレイルとサイクリング道の保守点検を行う事ができ、今後の活用の活路を見いだせた。
- ・1600人の参加目標には及ばない1333人の延参加者ではあったが8月末から9月にかけてコロナ感染警戒レベルが上がる中で白馬を訪れる方の動機付けになった。

今後の取り組み

今回のルートとして活用した白馬小径をより観光資源として活かせるように老朽化した看板やインターネット上の案内を充実させてイベントを開催していない時でも多くの方が気軽にランニングやサイクリングで楽しめる道として整備していきたい。来年度はより多くの方が参加したくなるように体力レベルに合わせたルートの提案をしたい。また、今回は告知不足を感じましたので、村内のレンタル事業者や宿泊事業者に向けて事前に内容が行き届くよう取り組みたい。



【 チェックポイントの看板 】

【目標・ねらい】

- ① コロナ禍においても安全な集客
- ② 白馬小径の活用
- ③ ゼロカーボンへの取り組み
- ④ 白馬村内全域を使ったイベント

※自己評価 【 B 】

【理由】

- ・参加者が1333人と目標の1600人に届かなかった。
- ・3か月の間、「いつでも、だれでも、どこからでも」無料で参加できるイベントを開催できた。
- ・既存の白馬小径というサイクリング道を活用し、印刷物を可能な限り使用しないイベント開催ができた。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北アルプスエリアに存在する氷河の観光資源化に向けた広域連携事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 HAKUBA VALLEY TOURISM (白馬村役場 観光課)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,226,100 円 (うち支援金: 4,150,000 円)

事業内容 小学生学習会

地元での氷河の認知度はかなり低く知ってもらう必要があるため、地元小学生を対象に勉強会を開催。氷河は温暖化の影響を大きく受けるため環境問題の一環としても行った。

本来予定していた、大人向けの学習会はコロナの影響もあり開催できなかったが、文化祭へ調査状況の資料を貼り認知度向上に努めた。



【学習会の様子】

【目標・ねらい】

- ① 認知度の向上
- ② 環境への配慮

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 支援金を活用して、観光資源化に向けたロードマップの作成を行い、認定後に向けたPRスケジュールを作成した。
- ② 氷河調査を並行して行うことにより、令和4年度中の認定に向けて資料が作成できた
- ③ 調査を行えたことで、途中経過を含め、文化祭や学習会を通じて認知度を向上することができた

※自己評価【B】

【理由】

- ・氷河認定に向けて調査を行いコロナ禍でも一定の認知度向上ができた。
- ・ロードマップを作成し、来年度以降の氷河ブランド構築のスケジュールが作成できた

今後の取り組み

氷河の認定後に氷河ブランドを大きくPRするため、ロゴの作成や商品の開発に取り組む。また、認定のタイミングに合わせプレス発表を検討しており、認知度の向上を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	安曇野アートラインガイドブック作成と学校での出張美術館開催
事業主体 (連絡先)	安曇野アートライン推進協議会 (事務局) 白馬村観光課
事業区分	教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,015,732円 (うち支援金: 761,000円)

事業内容

- (1)安曇野アートラインガイドブックの作成
 - ・小冊子×5,000部制作 (A5、無線とじ、フルカラー)
 - ・管内観光施設、学校施設等と加盟館 17館へ配布及び設置
 - ・小冊子データは公式ホームページへ掲載
- (2)美術館を学校で楽しもう (出張美術館)
 - ・実施日: 令和3年10月18日~19日 (2日間)
 - ・対象学校: 白馬村立白馬中学校 (鑑賞生徒: 206名)
 - ・展示作品: 加盟館 12館の油彩画、水彩画、版画、写真、彫刻ほか 29作品



【出張美術館】

【目標・ねらい】

- ①アートライン加盟館の魅力発信と認知度の向上
- ②美術教育、情操教育の推進と普及

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- (1)ガイドブック作成
 - ・加盟 17 施設の全貌と各施設の特徴や見所を、やさしい文書と多くの写真を通して紹介し、小冊子ならではの簡便さで閲覧効果が期待できる
 - ・美術館博物館と地域との結びつけを深め、教育文化施設及び観光資源としての役割を深く果たすことが可能となる。
- (2)出張美術館
 - ・学校教育において管内美術館の秀作絵画に触れることで、美術教育の推進とミュージアム文化が醸成された。

※自己評価【 B 】

- 【理由】
- ・制作物の完了に時間を要したものの、組織一体となって計画を遂行し到達目標に達したため。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・制作したガイドブックの発信を強化し、一層の地域への定着と観光客の獲得に向けて活動してまいります。
- ・出張美術館については、一定の手応えを感じているので管内教育委員会と連携して美術教育の推進に努めます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	インクルーシブ野外教育推進事業
事業主体 (連絡先)	白馬ユニバーサルフィールド実行委員会
事業区分	特色ある地域づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,216,436円 (うち支援金: 706,000円)

事業内容

アウトドアで使用できる車椅子を設計、開発し、障がい者でもアウトドアを楽しめる環境整備する事を目標に活動した。

ただし1号機が出来上がったのは9月下旬であり10月より体験会、試乗を繰り返し2号機が完成したのが11月中旬であった。雪上での試乗会を開催する予定であったがコロナ感染拡大により全てがキャンセルになり開催できなかった。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

アウトドア事業関係者、福祉関係者に試乗して頂き10点に及ぶ修正、改良を加える事ができた。この車椅子の利点、活用方法を理解、宣伝する事ができた。来年度は積極的に活用してもらう為に理解してもらったと思う。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

各事業者にレンタル又は提供して障がい者に活用できる環境を整備していく



[体験会]

【目標・ねらい】

- ①多くの方に知って貰う
- ②障がいがあっても楽しめることを知って貰う
- ③
- ④

自己評価【C.】

[理由]

コロナ感染が拡大して体験会を開催する事が出来なかった。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	震災アーカイブを活用した村民の自立的学びと語り継ぎの仕組みづくり事業
事業主体 (連絡先)	信州大学教育学部廣内研究室 教授 廣内大助 (廣内研究室 特任助教 内山琴絵)
事業区分	教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	地域協働の推進に関する事業
総事業費	1,205,178 円 (うち支援金 : 926,000 円)

事業内容

2014年11月22日に発生した神城断層地震で被災した白馬村において、震災記憶の継承と将来の災害に備えるため、地震災害の記録や記憶をデジタルアーカイブとして遺す「2014年神城断層地震震災アーカイブ」を活用した学校における防災教育の学び(学校教育での学び)と、生涯学習を用いた地域住民への語り継ぐ学び(地域での学び)の機会を創出した。さらに、震災から7年となる2021年11月22日に震災7周年報告会を開催し、小学生、中学生、生涯学習参加者が地域住民等に対して学びの成果の報告を行った。また、「災害アーカイブ展」を白馬村役場で開催し、オンライン展示も行うことで、村外に向けても学びの成果を発信した。



【学校教育での学び】



【地域での学び】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①学校教育における子どもたちへの防災教育

・小6理科・総合学習、中3総合学習にてアーカイブを活用した地域防災学習を実践し、子どもたちが地域と地震の関わり、発災時の行動について学ぶことが出来た。

②生涯学習を通じた地域住民の学びの場づくり

・白馬村公民館講座と連携した「アーカイブサポーターズ養成講座」を実施し(全5回)、震災の「語りべ」の育成、地域人材の掘り起こしを行うことが出来た。

③学習成果の地域への発信

・震災7周年に合わせて小学生、中学生、生涯学習参加者が地域住民等に対して成果を発表することが出来た。

【目標・ねらい】

- ①学校教育における子どもたちへの防災教育の実践
- ②生涯学習を通じた地域住民の学びの場づくり
- ③学習成果の地域への発信

※自己評価【 A 】

【理由】

地域住民の自立的学習成果の発表を地域内外に対して行ったことで、本事業が他地域にとっても波及効果の高いものとなった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

学校教育での学びについては、引き続き白馬北小・南小・白馬中においてアーカイブを活用した防災教育を実践し、発災時に自ら命を守る行動ができる態度の育成を図る。地域での学びについては、今回作成したガイドツアーの現地での実践を行うほか、アーカイブサポーターズ養成講座参加者の知識のアップデートを目指したセミナー・ワークショップを継続的に実施する。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

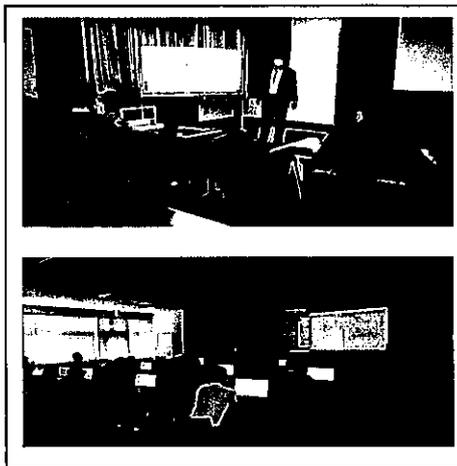
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北安曇支部管内商工会地域のデジタル研修事業
事業主体 (連絡先)	長野県商工会連合会北安曇支部 (TEL0263-88-6168)
事業区分	産業振興、雇用拡大
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,507,000円 (うち支援金: 1,205,000円)

事業内容

長野県としてDX戦略が打ち出される中、デジタル化の進展による社会環境やビジネス環境の変化に対応できるよう、スマートフォン・パソコン指導経験者で、日本アルプス国際学院での教務実績を持つ教員を中心に「スマホ・パソコン講座」を開催した。スマホ・パソコンの基礎知識をはじめ、クラウド環境を活用したデータの共有化、Excelの有効的な活用方法などを学び、電子申請やオンライン化に対応できる基本スキルを学んだ。



【目標・ねらい】

- ① デジタル化への対応
- ② 非接触型ビジネスへの転換
- ③ オンライン申請の推進
- ④ クラウド環境の整備
- ⑤ リモート支援への対応

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・Google のアプリケーションのダウンロード、アカウント設定、メール設定などを行い、Google の様々なサービスの活用方法、クラウド上でのデータの共有化を学ぶことができた。
- ・Excel 操作の応用を学ぶことで、作業の効率化、データの共有化、クラウド上での保存やダウンロードなど、デジタル化やオンライン化に対応できるスキルを取得できた。

※自己評価【C】

【理由】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、交付申請時より参加者が減少してしまった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回の講座では、スマートフォンやパソコンを使いクラウド環境を活用したデータ共有化などを学んだ。今後は、オンラインを活用した申請方法、効率的なデータ活用などを習得し、国・県・市町村が進めているデジタル化・オンライン申請に対応できるスキルを身につけられる講座を開催していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小谷村みんなの庭プロジェクト
事業主体 (連絡先)	小谷村 (観光地域振興課 集落支援係直通：0261-82-2589)
事業区分	(4) 安全・安心な地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	543,950円 (うち支援金：435,000円)

事業内容

みんなの庭は、災害時にも利用できるみんなの居場所です。

貸し出し用テントにより、神城断層地震が発生した11月22日に合わせて、8月～1月の毎月22日に防災キャンプを行います。テント宿泊による避難訓練を実施。

避難の際、ペットがいることが要因で自宅を離れられない方や、避難所の受け入れを断られた方の意見を参考に、ペットと一緒に避難できるように必要なことを、疑似避難者等から情報収集し整理します。また、女性に対するプライバシーに配慮した対応ができるように、要望をまとめテントの有効活用に発展させていきます。

テントを使用することで、経験した災害を無駄にせず、命と暮らしを守るために、平時から動ける体制を創出することに繋がります。避難等への意識を高め、危険な状況になってから慌てるのではなく、有事の際にも落ち着いて、いつも通り過ごせるようにすることで、地域防災力の向上を図ります。



【家族単位での防災体験】

【目標・ねらい】

- ① 避難への抵抗感の軽減
- ② 避難所でのプライバシー保護
- ③ 防災意識の向上

事業効果

コロナ禍による避難訓練等の実施には繋がっていないが、家族単位での防災用品の利用や体験、AEDを身近な存在に感じてもらえるなど、避難所を身近な存在に感じてもらった。

※自己評価 【 C 】

【理由】

コロナ禍により人を集めるイベントが実施できず、施設周知も控えめなものとなってしまった。

今後の取り組み

この活動を通じ、平時の利用者にも防災意識の向上のため避難所用品を日頃から触れてもらい避難所を身近に感じてもらうとともに避難しやすい施設体制整備を推進していく。

また、避難所指定を受け消防団の地元分団による施設の設備視察や避難経路の確認が行われ、コロナ収束後は周辺地区の住民を巻き込んだ避難訓練の実施などを行い更に身近な避難所となるよう住民意見を取り入れた活動を展開していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北アルプス地域の薬用植物活用実践事業
事業主体 (連絡先)	香 KOH.Lab 代表：松下ひとみ
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業・(6) ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,161,318 円 (うち支援金： 892,000 円)

事業内容

○貴重な資源でありながら、今まであまり活用されてこなかった北アルプス地域の薬用植物から、水蒸気蒸留という方法によってアロマセラピーで使われる精油や芳香蒸留水を得ることができることを紹介する。

○地元の植物の有効利用のみならず、蒸留会を開催することによって、森の散策と組み合わせて観光資源としても発展させていく。

○活用についての情報発信 (HP の作成、インスタグラムでの活動発信) を行う。

➤ 9 月と 10 月に小谷村北野地区でアロマ蒸留体験イベントを開催。地元住民や観光客を対象に森に親しみ、植物を有効利用することを広めていく。



【小谷村北野地区での蒸留会】

【目標・ねらい】

- ① 北アルプス地域の薬用植物の有効活用
- ② 観光客・地元住民向け蒸留会開催
- ③ HP、インスタグラムでの情報発信

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① HP を作成し、小谷村や小谷村観光連盟の HP とリンク、またマスコミの取材も受けることができ、予想以上に広報活動が行えた。
- ② 小谷村での蒸留会開催時に、県内各地から予想を上回る人数の申し込みがあった。また地元の人たちにも地元にあるいろいろな植物とその活用を知ってもらうことができた。
- ③ 今まで利用されていなかった北アルプス地域の植物を蒸留して芳香蒸留水を得て、マスクスプレーやルームスプレーとして使用できることを知らせることができた。

※自己評価 【 A 】

【理由】

HP、インスタグラムでの情報発信も実践でき、9月と10月の蒸留会イベントでは、予想を上回る参加者やマスコミの反響があった為。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

☆HP をさらに充実させ、北アルプス地域の魅力ある植物を PR していく。

(今年度は県内からの集客が中心であったが、来年度は県外からにも働きかけていく。)

☆好評であった「森林散策」「蒸留体験」に、「食」を組み合わせたイベントを実施する。

☆林業関係者との関係を密にして材料を確保し、県産精油・芳香蒸留水の販路を拡大していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	おたりの魔女プロジェクト
事業主体 (連絡先)	おたりの魔女 (横川晶菜 080-3663-1342)
事業区分	6 オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	546,670 円 (うち支援金: 330,000 円)

事業内容

- 1、地域資源を活かした新たな特産品開発
- 2、開発した特産品の販路拡大
- 3、先進地視察



【販売の様子】

事業効果

- 1、地域資源を活かした新たな特産品開発
地域資源を使った加工品など20種類ほどの商品を開発し、販売を行った。商品としての価値はもちろん、商品を通して小谷村の豊かさを訴求できた。
- 2、開発した特産品の販路拡大
白馬オーガニックマーケットやびんずる市などのマルシェへの出店、道の駅白馬、道の駅おたりや村内外のカフェや小売店での委託販売、ふるさと納税の返礼品としての提供など販路を拡大することができ、来年度に向けて安定的な売上を上げるベースを作ることができ、女性の働く場の創出にもつながった。
- 3、先進地視察
薬草やアロマの分野で先進的な取り組みを行う団体へ視察を行うことで、商品の販売だけでなく体験としての価値を提供する手法を学ぶことができた。

【目標・ねらい】

- ① 地域資源を活かした特産品開発
- ② 技術の継承
- ③ 女性の雇用機会の提供

※自己評価 【B】

【理由】

商品開発、販売機会の増加はできたが、今後雇用を創出するためには、より安定した売上の確保が必要であると考えたため。

今後の取り組み

来年度は、継続した雇用を生み出すことができるよう、今年度開発した特産品をベースに、より安定した売上を得られるように、さらに販売機会を増やしていきたいと考えている。また、今年度学んだ「体験」としての商品を提供できる体制を整え、団体として提供できる商品の幅を広げることで、売上を確保し、同時に小谷村の魅力の訴求にもつながればと考えている。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和 3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小谷村伊折地区の新地域特産物のブランド化推進事業
事業主体 (連絡先)	伊折農業生産組合 電話番号 0261-82-2230 E-mail yukiwarisou.iori@gmail.com 担当藤原
事業区分	(6)イ農業の振興と農山村づくり (1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	952,155 円 (うち支援金 : 735,000 円)

事業内容

1. 食用ハーブの生産・加工・販売
2. ラズベリー・ブルーベリーなどのベリー類の生産・加工・販売
3. エディブルフラワーなどの生産・加工・販売
4. オンラインによるハーブティーやスパイスキット販売及び講座配信
5. 伊折体験施設「ゆきわり草」を活用した里山ツアーの提供

<規模>6a

<方法等>ミニトマトを栽培しているハウス2棟、雪中甘藍栽培地の1/3ほどを食用として活用できるハーブ・エディブルフラワー類を栽培し、お茶やスパイス用ハーブとしての加工販売。ベリー類は試験栽培実施。収穫できたものを使った料理講座。里山体験の提供。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① ハーブは果菜類に比べて手間もかからず、収穫なども軽労働であるため高齢者や女性でも扱いやすく導入しやすかった。多年草は1度植えれば翌年も収穫できるため、少人数でも作業を行う事が出来る。
- ② 果菜類のように消毒や肥料蒔きなど頻繁に行わなくてもよく草取りや収穫の手間だけで済むので、空いた時間に短時間作業をすることができ子育てママさんにもお手伝いをお願いすることができた。
- ③ 生産販売だけではなく、摘み取りや様々な体験なども視野にいれた「伊折モデル」を目指す

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること

今後も引き続きハーブの栽培を進めていく。また栽培管理に関しては土壌の状態や環境に適した種類、栽培方法なども研究しながら、ハーブを使用した製品の試作や販売に繋げていきたい。



【 ハーブ畑 】

【目標・ねらい】

- ① 高齢化・過疎化にも耐えうる生産物の導入・ブランド化
- ② 子育て世代でも働くことができる短時間労働の実現
- ③ 新たな「伊折モデル」の実現

※自己評価 【 B 】

【理由】

導入や短時間労働についてはおおむね効果は得られたと思われま
す。さらにハーブの活用を進めて
いきます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和 3 年度地域発元気づくり支援金事業 総括書

事業名	北アルプス山麓育ち 台湾プロモーション事業
事業主体	「北アルプス山麓育ち in 首都圏」実行委員会 (北アルプス地域振興局商工観光課)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	754,810円 (うち支援金: 603,000円)

事業内容

インバウンド復興に向けた当地域の海外向け観光プロモーションとして、台湾の消費者に向けて当地に溢れる大自然や食文化の魅力、多様なアクティビティ、体験ツール等を発信した。

① 北アルプス地域観光 WEB マガジン

台湾において日本文化に親しむ大学生等の若年者層を対象に、北アルプス地域の観光素材を紹介する web マガジンを送信した。また、北アルプス山麓ブランドホームページに簡体字翻訳機能を追加した。

② 北アルプス山麓ブランド品の海外展開 (物産展開催)

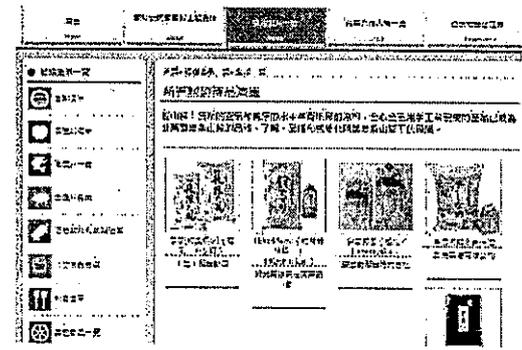
○開催日 11月20日~21日の2日間

○会場 裕毛屋「公益店」(台中市内)

北アルプス山麓ブランドの物産展に合わせ、制作した観光PR動画を現地会場において上映し、観光PRを行った。



物産展の様子 (11/20・21)



簡体字翻訳後のホームページ

事業効果

1 台湾の大学サークル、高校、アウトドア関連団体TV及び雑誌メディアなど約800者にメールにて配信した。記事掲載事業者に12件の問い合わせがあった。

北アルプス山麓ブランドのホームページには、改修後台湾から35件のアクセスが確認された。

2 台中市内の裕毛屋公益店で11月20日・21日に開催した物産展では、2日間で約1,000人が来場した。会場では昨年度に引き続き当委員会が制作したPR動画を放映し、台湾の皆さんに北アルプス地域の代表的な観光スポットや特長について紹介することができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

これまでの取組の成果を踏まえつつ、コロナウイルス感染症の動向を見極めた上で今年度実施できなかった台湾に渡航して行う観光プロモーションを展開していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

【目標・ねらい】

- ①北アルプス山麓地域への誘客の促進
- ②北アルプス山麓地域の魅力を台湾でPRする

※自己評価【B】

今年度も現地でのプロモーションは、中止せざるを得なくなったが、WEBマガジンによるPRや台湾向けホームページ改修により、台湾における北アルプス地域のプロモーションを継続して実施できた。

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	北アルプス山麓ブランド活性化推進事業
事業主体 (連絡先)	北アルプス山麓農畜産物ブランド運営委員会 (TEL 0261-23-6511)
事業区分	農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	・1,419,015 円 (うち支援金 :1,135,000 円)

事業内容

北アルプス山麓ブランドの海外に向けた認知度向上と販売促進を図るため、日本産食品に対する認知度の高い「台湾」において、現地店舗への輸出に取り組んだ。主な内容は以下のとおり。

- 北アルプス山麓ブランド品の海外展開「台湾」
 - ・事業者と裕源「裕毛屋」とのWEB商談(6月22日)
 - ・北アルプス山麓物産展の開催
日時: 令和3年11月20日(土) 21日(日)
場所: 台湾・台中市 裕毛屋「公益店」
- ブランド品の認定審査
 - ・北アルプス山麓ブランド認定委員会の開催
新規認定(コロナ対策により審査員個別審査)
- その他(ブランド品PR)
 - ・「北アルプス山麓ブランドの日」でのPR
大町文化会館(令和3年11月9日)
 - ・「北アルプス山麓育ち」オリジナル弁当の募集
品数 13品(10事業者)

事業効果

- ① 台湾における販路拡大(物産展を契機に取引開始)
 - ・取引品目数 40品 10事業者
- ② 北アルプス山麓ブランド新規認定品数
 - ・新規認定品目数 7品目(2事業者)

事業者名	認定品名
株式会社ヴィニョ ブル安曇野 (池田町)	ドメーヌヒロキ ソーヴィニヨンブラン 2020
	ドメーヌヒロキ シャルドネ 2020
	ドメーヌヒロキ メルロー2020
	ドメーヌヒロキ ラ ヌーヴェル リュンヌ 2020
峯村農園(大町市)	アップルハニー
	アップルハニールージュ
	りんごジュース

今後の取り組み

- ① 引き続き、台湾への販路拡大(輸出拡大)へ向け取り組み、特に、現地での取り扱い(商談成立)を目指した商品づくりの研究を進めていく。
- ② コロナ禍により、食品における販売展開が厳しい状況の中、地域内の優れた商品をブランド品として認定し、ブランド化による販売展開を進めていく。



【販売店チラシ】

【目標・ねらい】

- ① 北アルプス山麓ブランド品の認知度向上及び販路拡大
- ② 地域内にある優れた商品を認定し、商品のブランド化と販売促進を図る。

※自己評価【B】

【理由】

- ① コロナ感染症により現地に渡航して、販売促進はできなかったものの、当初予定した事業者(2事業者)以上の参加があった。
- ② コロナ禍により食品産業の販売不振の中、新品目として開発された商品を、ブランド品として認定することができた。